第３回米沢市水道事業及び下水道事業運営審議会　会議録

１　日時

令和６年１０月２８日（月）　午後３時開始

２　会場

米沢市役所３階　３０３会議室

３　出席者（敬称略）

⑴　出席委員

遠藤昌敏会長、漆山淳哉副会長、加納正仁委員、佐藤康子委員、鈴木愛子委員、中村和則委員、堀内正幸委員、宮川英子委員、渡部一雄委員

⑵　欠席委員

安部裕之委員、安部吉弘委員、髙橋征男委員、布施賢治委員

⑶　事務局員

安部道夫上下水道部部長、安部泰祐水道課長、大野信明下水道課長、髙田直美業務課長補佐、伊藤真奈美業務課財務主査、粟野真一朗業務課企画主査、川村忠水道課長補佐、松浦雄幸下水道課長補佐、羽賀肇法下水道課施設管理主査、嵐田英樹下水道課工事主査、須貝拓海主事（業務課）

４　審議会の概要

⑴　会長挨拶

最後の審議会になるが、これまで委員の皆様からいただいた意見を参考に答申案が完成している。後程事務局から説明のある案についてご確認をお願いしたい旨、あいさつされた。

⑵　審議

ア　本審議会が成立していることを報告

イ　審議（⑴　答申（案）について）

≪事務局から説明≫	
事務局	（資料「適正な下水道使用料のあり方について」、 当日配布資料「答申（案）」） 第１回及び第２回審議会の際に説明した内容を踏まえて、答申（案）の内容について資料を用いて説明した。 答申（案）について １　答申事項の内容 次のとおりの答申（案）とした。 ⑴　適正な下水道使用料のあり方について、採用した指

	標、検証方法及び検証結果について審議し、適切であると判断したもの (2) ①公私負担の適正化を図ること、②検証で用いた改定率（15～22％程度）を勘案して下水道使用料の改定を進めること、③改定を進めるに当たっては収支計画及び社会経済情勢、市民生活への影響を考慮することを求めるもの (3) ①算定期間は令和7年から令和9年までとすること、②さらなる経営改善及び下水道事業の最適化を図ることを求めるもの (4) 改定時期は令和7年9月検針分（10月請求分）からとすることを求めるもの 2　米沢市下水道事業の現状 米沢市の下水道事業について、次のとおり現状を整理した。 (1) 事業に伴う収入によってその経費を賄う「独立採算性の原則」が適用されていること (2) 汚水を処理する経費を使用料収入で賄えておらず、一般会計からの繰入金により補っていること 3　課題の整理 米沢市の下水道事業について、次のとおり課題を整理した。 (1) 地震や自然災害に対する備えの重要性が高いこと (2) 物価の上昇及び人件費の高騰は今後も継続すること (3) 人口減少傾向が続くことは確実であること 4　結び 下水道事業の持続可能性の確保に努めることを求めた
≪質疑応答≫	
	特に質問及び意見はなかった。これらを答申の内容とすることとした。

ウ　審議（(2) 今後のすすめ方について）

≪事務局から説明≫	
事務局	11月5日（火）に答申の手交を行い、同日、市長による臨時記者会見を行う予定。11月25日及び27日にはそれぞ

	れ、産業建設常任委員会協議会、市政協議会が開催されることから、答申を受けたことについて議会へ報告する。また、12月15日号広報よねざわに特集ページを掲載し、本市の下水道事業の現状について市民へ周知を行う予定としている。 　使用料改定については本市で改定率を精査後、令和7年3月定例会に議案を提出し、議決をいただいた後、市報や検針のお知らせなどにより周知を行う。
≪質疑応答≫	
	特に質問及び意見はなかった。

エ　審議（(3)その他について）

≪事務局から説明≫	
事務局	審議会会議録署名人の選出について会長に一任した。
≪会議録署名人の指名≫	
会長	各審議会の会議録署名人をそれぞれ指名した。
≪質疑応答≫	
	特に質問及び意見はなかった。

(3) その他

特になし

(4) 閉会

令和６年１０月２８日（月）　午後４時

この会議録（会議要旨）が、正確であることを証するために署名する。

令和６年11月 1 日

会　長　遠藤 昌敏

委　員　渡部 一雄